

博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成28年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

機関名	熊本大学	整理番号	I02
プログラム名称	グローバルな健康生命科学パイオニア養成プログラム HIGO		
プログラム責任者	西村 泰治	プログラム コーディネーター	小椋 光
<p>1. 進捗状況概要</p> <p>本現地視察は、昨年度の中間評価の結果を踏まえて計画をどのように見直し、目的の着実な達成に向けてどのような方向性で事業を進めているのかをヒアリングし、助言を与えるためのものである。昨年度から今回の視察の間に、本プログラムに大きな影響を及ぼす2つの出来事があった。すなわちインターン受入機関である化学及血清療法研究所における製剤の製造にかかる不正の問題と熊本地震である。いずれも本事業の一時停止や事業の遅延をもたらすようなものである。しかしプログラム担当者や参加学生、関連企業・行政機関等の努力により、その影響を最少限に抑えることが出来たのは立派である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体的に計画が着実に実施されており、しっかりとした体制が整備出来ている。 ・中間評価結果の留意事項及び参考意見については適切に対応している。 ・企業・行政・海外の3つのインターンシップや企業と行政によるセミナーなど、プログラムが充実しており、学生が非常に良い経験をしている印象を持った。 ・企業セミナーで企業と意気投合し、ベンチャー企業を設立した学生が出て来ているなど、本プログラムの影響力の大きさがうかがえる。 <p>2. 意見（改善を要する点、実施した助言等）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・インターンシップについて、特定の学生のケースを取り上げて、事前準備から実施、参加後の変化など、時系列での事例があるとこれから参加する学生に役立つのではないか。 ・本プログラムの表題である「グローバル」という部分について、学生がどの程度身に付けて世の中に出て行くのかという点ではまだ十分とは言えない印象を持った。そのため、教員による一定の方向付けを行ったり、また学生も含めて理想について皆で話し合う機会を持つことなどが必要である。 ・研究室ローテーションについて、2日間滞在するだけでは導入部分のみで短すぎるという意見が学生の一部にあったため、改善策について検討していただきたい。 ・マルチメンター制度について、学生に聞くと実質的には1人となっているようである。社会科学分野の教員にも加わってもらうなどの工夫をし、教員と学生との交流機会をより増やすことが望まれる。 ・プログラム参加学生が増えてきたため、学生全員が顔を合わせるような機会をセットし、先輩と後輩の接点を設けることが望ましい。 ・他大学のプログラム参加学生との交流を通して、学生達がお互いの活動について情報を交換し、切磋琢磨するような機会が持てるとよいのではないか。 			